

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 27 日現在

機関番号：62618

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16766

研究課題名(和文) 消滅の危機に瀕した八丈語の音声資料作成とその分析に関する研究

研究課題名(英文) Study on preparation and analysis of speech material of Hachijoan in danger of extinction

研究代表者

三樹 陽介 (MIKI, Yosuke)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・言語変異研究領域・特別研究員

研究者番号：40614889

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：消滅危機言語である八丈語の記録・保存・継承のため、収集した音声にテキストと標準語訳(逐語訳と意識)のほかアノテーションを加え、音声談話資料として整備することで、八丈語研究のインフラ整備を行なった。併せて先行研究の記述を確認し、現在の八丈語の状況について個人差や地域差を含めバリエーション実態を把握する調査を行なった。その成果を基に、文法記述の精緻化を行ない、用言の活用体系の記述や代名詞の体系記述を見直し、新たに記述を加えた。また、言語継承の観点から、音声談話資料を教材として活用するため一般島民や学習者向けに紙芝居や会話集・資料の作成を行ない、ドキュメンテーションとして記録し映像化した。

研究成果の概要(英文)：In order to record, preserve and inherit Hachijoan(Dialect of Hachijo island) which is a crisis language of extinction, I made speech discourse materials and arranged infrastructure for Hachijoan study. I transcribed collected voice into text, gave Japanese translation and annotation information, and linked it with voice data. At the same time, we conducted a survey to grasp the actual conditions of individual differences and regional differences about the current situation of Hachijoan, and compared it with previous studies. Then, we refined the grammar description, reviewed the verb and adjective utilization system and the description of the pronoun system and added a description including the new discovery. Also, in order to utilize the speech discourse material as a teaching material for language succession, we made picture-story shows, general conversation collections and materials for general islanders and learners, recorded and visualized as documentation.

研究分野：日本語学

 キーワード：八丈語(東京都八丈島方言) 消滅危機言語 音声談話資料 ドキュメンテーション 言語継承 記述
 文法 紙芝居

1. 研究開始当初の背景

(1) 2009年2月、ユネスコによって八丈語(八丈方言)は、6つの琉球語とアイヌ語と一緒に「消滅の危機に瀕した世界の言語」のリストに登録された。従来、八丈語は八丈方言と呼ばれてきたが、その独自性から、ユネスコによって「国際的基準からすると独立した言語として扱うのが妥当」と判断され、「八丈語」として登録された。

(2) 八丈語は係り結びや形容詞連体形のケ語尾等、奈良時代以前の古代日本語の特徴や、他の方言では既に失われてしまった言語体系を維持しており、文献以前のかかなり古い時代に日本語と分岐したと考えられている。琉球諸語とは別系統の唯一の日本語本土方言の姉妹言語として価値が高いものである。

(3) 消滅危機言語の保存には記述文法書・談話資料・語彙集(F.Boasの3点セット)が必要だが、八丈語には金田章宏氏による優れた文法記述(『八丈方言動詞の基礎研究』笠間書院2001)や地元話者による方言集がある一方、整備された談話資料や録音資料はほとんどなく、話者が十分に確保できるうちに早急に調査し、資料を整える必要がある。談話資料は語学学習でいう教科書にあたるものであるが、本研究ではそれに音声データをリンクさせることで、音声データベースとしても機能する音声談話資料を作成する。こうした資料は、学術研究に資するだけでなく、言語継承活動の教材として応用することで地域社会にも貢献できるものである。

2. 研究の目的

(1) 以上を踏まえ、ユネスコにより消滅の危機の度合いが高いと判断された八丈語を緊急的に調査・記録するとともに、収集した音声データを基に談話資料を作成し、さらに音声データとリンクさせアノテーション情報を付与して音声談話資料として整備することが本研究の目的である。また、広く一般に公開し、八丈語研究のインフラ整備をすることも併せて目的としている。

(2) 本研究で作成する音声談話資料は、消滅危機言語の記録・保存に貢献するばかりでなく、学術資料として国内外の研究者に役立ててもらおうことができ、また、地域における言語継承活動にも貢献するものである。資料へのアクセスを良くし利用価値を高めるため、作成した音声談話資料をWeb上で広く一般に公開することで、学術研究や言語継承活動に貢献することを目的としている。

(3) 以上と併せて簡易文法書・簡易辞書を作成し、音声談話資料の利用の便をよりよくする。

3. 研究の方法

(1) 本研究では危機言語保存の観点から自然談話音声を中心に収集し、音声データベースを作成する。しかし、音声データはそのままでは利用の便が悪いため、収集した音声を文字起こし、日本語訳(逐語訳と意識)やアノテーション(研究情報)を付与する。その後、話者に録音を聴いてもらいながら、テキストやアノテーションを検討し、必要に応じて修正を行ない、精度を高めていく。以上の作業を経て音声談話資料として整備する。

(2) 談話資料の分析とフィードバック
作成した音声談話資料を基に、イントネーション・語彙・文法等について分析を試み、特に音調システムを解明する。また、分析の実践から得た改善点をフィードバックし、音声談話資料の改良に努める。

4. 研究成果

(1) 八丈語の話者の自然談話音声を採録し、テキストに起こした上で標準語訳(逐語訳と意識)を付し、アノテーション情報を付与することで音声談話資料として整備した。既に伝統的な八丈語を話せる話者は少なく、自然談話には非八丈語が混じるが、話者の内省には伝統的な八丈語の言語体系が維持されている。保存のため収集した自然談話音声は、そのままではかつての八丈語の体系を十分に保持しているとはいえないが、こうした内省に関する情報を記述し、テキストに参考情報として付記することにより、自然談話音声と言語学的に保障された修正テキストを作成した。修正テキストは自然談話を文字化したものを基に話者と協議し検討を加えて作成してある。

(2) 臨地調査によって先行研究の記述を確認し、現在の八丈語の状況について地域差や個人差を含め確認した。

八丈語は奈良時代以前の関東方言の系譜を引き、その特徴を色濃く伝える数少ない言語の一つであり、日本語の中でも特殊な位置を占めており、萬葉集東歌にみられるような用言の終止・連体形の対立や係り結びなど、古代日本語の文法的特徴が今も保存されている。このような現代標準語では失われてしまった古代日本語の特徴を保存している例として、古代語における二格(与格)・へ格(方向格)の対立が二格・イー格として明確に保存されていることを示し、さらにゲー格・シャン格を加えた4つの格の使い分けがなされていることを臨地調査のデータを基に明らかにした。また、現在イー格が衰退し二格が使用範囲を広げて使い分けに変化が生じており、使用範囲が重なるゲー格・シャン格についてもその用法に広がりが見られることを明らかにした。以上の研究成果は論

文(2)・(3)および、学会発表(7)・(8)・(9)・(10)として発表した。

(3) 音声談話資料を言語継承に役立てるために応用する実践例として 2016 年度より八丈語の紙芝居をドキュメンテーションとして記録し活用する取り組みを行なった。言語継承活動や教育の場でも役立てられるように、一般島民や学習者向けに応用することを目指し、八丈島の民話を基にした紙芝居を作成した。題材を民話に採り、「語り」のスタイルを取り入れることで、伝統的な八丈語のテキストと、それに基づいた音声の保存とを両立させた。また、方言継承活動に活用しやすいよう紙芝居を作成し、5 地域のテキストを整備した。

紙芝居のデータは、Web 上でテキストや話者が演じている映像とともに公開することでアクセスを良くし、学習環境を整えた。このデータを用いて学習者が練習することで、限られた条件下ではあるが新しい話者を創出することができる点に創造性・独自性があり、言語継承に貢献するものである。以上の研究成果は論文(1)、学会発表(2)・(4)・(5)・(6)として発表したほか、成果物としてその他【紙芝居】(1)・(2)を作成している。

(4) 文法記述の精緻化

先行研究の記述を基に、近年研究の発展が著しい琉球諸語の最新の研究成果を参考にし、文法の体系記述の精緻化を行なった。

人称代名詞・指示代名詞については、国立国語研究所の消滅危機言語プロジェクトの一環として行なった 7・80 代の生え抜き話者への臨地調査で得たデータをもとに、先行研究で示されている体系に新しい記述を加えた。既知の-ra に加え、先行研究では未指摘の複数接辞-rara について報告し、複数接辞を 2 系列に整理することで八丈語に正常複数と近似複数との対立が明らかにするとともに、複数接辞の付与には階層性があること示した。また、漠然と事実として知られていたものの明確な記述がなかった諸事象についても記述を行なった。例えば、1 人称複数では包括と除外の区別がないことや、2 人称では現在一部の用法の変化(単純化)実態の記述などである。以上の研究成果は学会発表(1)(3)として発表しており、現在論文化作業を進めている。

動詞・形容詞・形容動詞(名詞述語文を含む)についても活用体系の記述を中心に精緻化を進めている。動詞に関しては金田章宏(2001)ではほぼ網羅されているが、形容詞や形容動詞についてはまだ記述が十分ではないことから、体系的記述を行なっている。先述の国立国語研究所消滅危機言語プロジェクトや方言文法研究会の調査票を参考にし、精緻化を進めている。この研究成果については未発表であるが、2018 年度夏の国際学会において発表が決まっているほか、論文化

に向けて作業を進めている。

このほか格体系の記述の精緻化についても調査を進めている。

(5) このほか、会話集や方言テキストなど、八丈語で書かれた資料の作成を進めている。八丈語には八丈語で書かれた文学作品等はほとんどなく、文字資料は学術研究に特化したものがその多くを占めている。そのため、一般向けの資料の作成を進めている。今後も継続して行なう予定である。

(6) 今後の研究成果の発表予定

助成期間中の研究成果を基に、現在、2 本の論文と 1 本の報告書、1 件の書籍の分担執筆項目を執筆中である。また、助成期間中の研究成果を基にして、今夏に 3 件の国際学会での発表を予定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

(1) 三樹陽介(2018)「音声談話資料を用いた言語継承活動への取り組み—八丈語による紙芝居を例に—」『国語研究』81, 國學院大學国語研究会, pp.1-17, 査読有

(2) 三樹陽介(2018)「八丈語が保存する古代性と新しい変化—二格とイー格の使い分けを例に—」、『ブラジル日本研究国際学会論文集』(ブラジル日本研究国際学会, ブラジル連邦共和国) pp.811-836, 査読有

(3) 三樹陽介(2017)「八丈語が保存する古代日本語の特徴」、『国立高雄餐旅大學應用日語系國際學術研討會論文集』(国立高雄餐旅大學, 台湾) pp.137-148, 査読有

〔学会発表〕(計 10 件)

(1) 三樹陽介(2018)「八丈語三根方言の人称・指示代名詞の複数と階層性」, 日本言語学会第 156 回大会(東京大学)

(2) Yosuke MIKI(2018) “Kamishibai in Diarect - Aiming to inherit the Hachijojima dialect endangered by extinction-”, international symposium “The Art of Kamishibai” The Word of the Image and the Image of the Word (Ljubljana, Slovenia)

(3) 三樹陽介(2018)「八丈語三根方言の指示詞 代名詞」, 「日本の消滅危機言語 方言の記とドキュメンテーションの作成」平成 29 年度第 2 回研究発表会(国立国語研究所)

(4) Yosuke MIKI (2017) “Application of speech discourse material to language succession activity - Efforts at Hachijo Island -”, The 15th Urban Language Seminar and the 2nd Symposium on the Dynamics of Putonghua (澳門大學, 中華人民共和國マカオ特別行政区)

(5) Yosuke MIKI (2017) “Exploring the Possibility of Utilizing the “Picture-Story Show” Method to Inherit an Endangered Language: The Case of Hachijoan”, European Association for Japanese Studies (Universidade NOVA , República Portuguesa)

(6) 三樹陽介 (2016) 「八丈語による紙芝居—音声談話資料を用いた言語継承活動への取り組み—」, 日本方言研究会第 103 回研究発表会 (東北文教大学)

(7) 三樹陽介 (2016) 「八丈語が保存する古代性と新しい変化 —二格とイ—格の使い分けを例に—」, XI Congresso Internacional de Estudos Japoneses no Brasil / XXIV Encontro Nacional de Professores Universitários de Língua , Literatura e Cultura Japonesa

(8) 三樹陽介 (2016) 「談話資料にみる八丈語の格 —二格、イ—格の用法を中心に—」 平成 28 年度國學院大學国語研究会前期大会 (國學院大學)

(9) 三樹陽介 (2016) 「八丈語が保存する古代日本語の特徴」, 國立高雄餐旅大學應用日語系國際學術檢討會 (國立高雄餐旅大學)

(10) 三樹陽介 (2015) 「八丈語の談話資料による史的考察」, 平成 27 年度國學院大學国語研究会前期大会 (國學院大學)

〔その他〕

【紙芝居】

(1) 三樹陽介 編・山本史画 (2018) 『八丈語紙芝居 タコのムコ殿』, 全 9 頁

(2) 三樹陽介 編 (2016) 『八丈語紙芝居 かけじゃら』, 全 13 頁

【基調講演】

(1) 三樹陽介 (2016) 「八丈語の独自性と価値—教育現場に期待すること—」, 東京都教育委員会委嘱、平成 28 年度夏季教職員研修会 (於東京都八丈支庁)

(2) 三樹陽介 (2016) 「八丈語の独自性と価値」 八丈町教育委員会委嘱、第 8 回八丈方言講座 (於八丈町役場)

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

三樹 陽介 (MIKI, Yosuke)

国立国語研究所・言語変異研究領域・特別
研究員 (PD)

研究者番号 : 40614889